JFEトンボみち ファンクラブ通信　2015年6月号

「水辺の生きもの観察会2015」
多くの方のご参加で開催

5月24日(日)、『水辺の生きもの観察会2015』をJFEトンボみちで開催しました。広報よこはま鶴見区版や参加者募集のチラシ等を見て申し込みいただいた、一般参加者25名(8家族)が、トンボ池に棲んでいるヤゴなどの生きものたちとふれあいました。

← 集合場所のシーフォーレから
バスに乗ってトンボみちへ。

オリエンテーション。
観察会の説明を受けます。→

トンボ池の生きもの達を捕まえます。

↑虫眼鏡を使って
ヤゴのスケッチ。

↑顕微鏡で更に細かくチェック。
ヤゴの同定作業です。

←講師の早川さんによる
トンボの棲む環境等の説明。

最後に捕まえた生きもの達をリリースし、
↓

恒例の記念撮影です。↓

この観察会開催にあたって、「横浜市環境創造局」の後援と、企画・運営は、早川さんをはじめとした「あおぞら自然共育舎」の協力をいただきました。

【連載9】トンボ百科　～ あなたもついにトンボ博士？ ～

今回はトンボの羽化について、トンボ博士がズバリお答えします。

⑥トンボ大空に旅立つ

Q1. ヤゴの羽化の前兆は？

プールのヤゴ救出作戦など、捕獲したヤゴを羽化まで育てる機会があろう。そんな時しばしば質問されるのが羽化の前兆だ。ヤゴは羽化が近づくと**眼の輝きを増す**。水面に顔を出すようになるし、エラ呼吸をやめ、**胸のわきの小さな穴（気門）から直接空気を取り込み、呼吸をする**ようにもなる。

だからこの時期、水槽内の飼育なら割り箸をたてるなどし、水上に出られる足場を確保しておかないと溺れてしまう。（文責：田口正男農学博士）

Q2は7月号に続きます。

※この「トンボ百科」は、横浜市環境保全協議会発行の「かんきょう横浜」から転載しています。

【シリーズ】　トンボみち の 仲間たち

5月23日（土）のファンクラブ活動の様子です。　（撮影：山田さん）

遊歩道の草刈り

麦の収穫

立派なキュウリ畑

アゲハチョウの幼虫

黒蜜寒天と ところてん
美味し～い

ファンクラブのみなさん

活動予定　※雨天は1週間延期

今月：　6月27日（土）　9時～11時
来月：　7月25日（土）　8時～10時

事前の申込みは不要です。誰でも参加可能！

公式ホームページをご覧ください

トンボみちファンクラブ　検索

JFEトンボみち　ファンクラブ通信　2015年6月号
発行日：2015年6月24日
発行者：トンボみちファンクラブ通信事務局
事務局：〒230-8611　横浜市鶴見区末広町2-1
JFEエンジニアリング（株）総務部 施設管理室
Tel045-505-7447、Fax045-505-6546

ファンクラブ通信への自由投稿をお待ちしています。

京浜の森ロゴマーク

ファンクラブ通信に使用しているリサイクル用紙は、古紙パルプ配合率１００％です。